

「放射能汚染マップ」解説 (詳しくは「三陸の海を放射能から守る岩手の会：再処理・岩手の環境」HP参照)

【日本原燃は放射能の除去を！ それができないのならば再処理から撤退を！】

再処理工場アクティブ試験において原燃の使用済み核燃料 430 t のせん断が 06.4 から 08.10.2 まで行われ、大気ヘクリプトン 85、海洋ヘトリチウムを主とする大量の放射能が放出され、その結果周辺の汚染が進みました。除去できるのに関わらず、全量を放出した放射能は、クリプトン 85、トリチウム、炭素 14 です。ヨウ素 129 は除去が不完全のため大量に放出され、ほかにヨウ素 131、ストロンチウム 90、イットリウム 90 など放出されました。ほかの核種は放出されていないことになっています。本格操業になるとアクティブ試験の 4.7 倍せん断されます。マップは主に使用済み燃料のせん断試験中の公的データをまとめたものです。

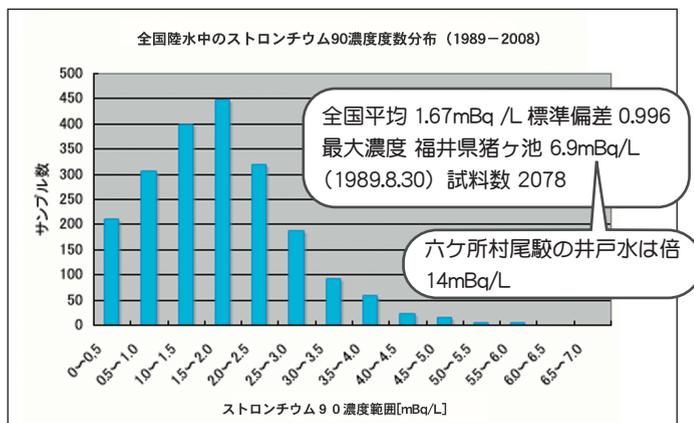
① 放射能の雲が頻りに降りてきていました。アクティブ試験で使用済み燃料が 150 日かけてせん断されました。そのうち工場周辺の 8 測定局(マップ参照)のいずれかで 97 日も検出されています。これはせん断日の約 65% に相当します。クリプトン 85 は飛距離の短いベータ線を放出するため測定器の中まで入ってこなければ検出できません、検出されたことはクリプトンの雲が降下してきたことを示しています。最大値は北西 10 km 吹越局で、自然のクリプトン 85 の値 (1.5 ベクレル/m³) の 7300 倍 (11000 ベクレル/m³) もの放射能の雲が 1 時間以上とどまり去っていききました (07.9.15)。青森県・原燃のデータによると尾駮、二又、吹越、室ノ久保局での検出が目立っていました。なお、工場敷地内の 9 つのモニタリングポストのいずれかでは 109 日 (73%) 検出されていました。

② 尾駮沼の生物がヨウ素 129 で汚染されました。08 年のプランクトンはアクティブ試験前の約 74 倍、ワカサギは約 20 倍、ハゼは約 41 倍、エビは約 18 倍、カキ貝は約 26 倍、藻類は 06 年と比較し 19 倍に増えています。ヨウ素 129 は体内に入ると甲状腺に濃縮しそこを集中的に被ばくします。

③ 六ヶ所農業世帯の日常食 (08.8) から平常値の約 27 倍のヨウ素 129 が検出されました。青森県の委託調査として環境科学技術研究所は食物摂取による放射能の体内取り込み調査を、アクティブ試験が開始された 2 ヶ月後の 06.6 から実施しています。これは六ヶ所の漁業者、勤労者、青森市の勤労者各 5 世帯から協力を得、その日に食べた食物を一人分余計に提供してもらい各グループ毎まとめその放射能を調べたものです。漁業者からはそれまでの平均値の約 7 倍検出 (08.1) されました。以降漁業者世帯の調査結果は打ち切られたためか公開されていません。そして新たに農業者グループが調べられました。その結果平常値の約 27 倍 (08.8) のヨウ素 129 摂取になりました。

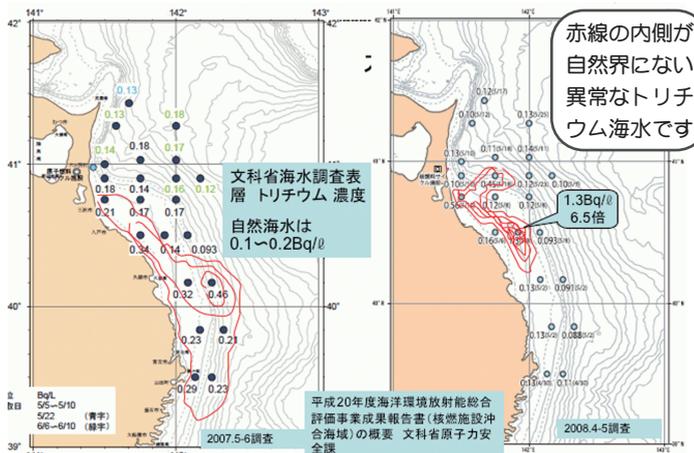


④ 尾駮の井戸水からストロンチウム 90 が全国最高濃度検出されました 14 ミリベクレル/リットル。これはそれまでの最高値 (福井県猪ヶ池) の倍の値で全国平均値 (1.67) の約 8.4 倍です。測定者の原燃は「今回ストロンチウム 90 濃度が平常の変動幅を上回った原因は環境レベルの変動によるものと考えられる」としていますが、過去の全国の数値と比較しても異常値です。ストロンチウム 90 は骨に濃縮し強いベータ線を放出し造血細胞に影響し白血病の引き金になるため非常に危険な放射能とみなされています。



⑤ 青森県・原燃はトリチウムデータを操作している疑いが濃厚です。環境科学技術研究所は尾駮港で 33 回測定し県検出限度以上が 6 回 (06.4-08.12) ありました。北方 25km の東通原発沖合で東北電力がトリチウムを 3 回検出し再処理起源と推定。しかし青森県・原燃は放出口直上、南北 5km と 20km 地点海上で同時期に 50~60 回測定し全て不検出でした。*07.10.2 に工場からトリチウムが原燃濃度限度の 2821 倍で海洋へ放出。07 年度には海洋へ 75 回放出、平均で原燃濃度限度の 560 倍でした。本格操業になると 2700 倍の濃度で 1 日おきに放出される見込みです。

⑥ 海水中トリチウム濃度が広範囲で上昇



左図 2007 年 春 右図 2008 年 春 文科省調査